

自助と
共助で
防災!

地区防災計画

1. 基本方針

北海道胆振東部地震にて、札幌市内で最大の震度6弱を記録した元町地区では、「自助」と「共助」をまとめた地区防災計画を作成する。

2. 元町地区が取り組む「自助」

再び、北海道胆振東部地震のように大きな揺れやブラックアウト、断水が起っても困らないように『自助』に取り組んでいく！

(1) 平時における取組

家の耐震化と 家具固定・配置見直し

- ・特に寝室の家具固定、配置の見直しをして安全を確保する
- ・テレビやそのほかの家具の配置を考える
- ・食器棚の扉の開閉防止、ガラス飛散防止の対策も行う

水と食料の備蓄 最低3日分

- ・飲料水は最低1日1人3リットル、3日分備蓄する
- ・風呂場に水を貯めておくなどしてトイレの水も確保する
- ・食料も3日分備蓄する
- ・冷蔵庫の食材を調理できるようカセットコンロなども備蓄する

灯り・情報・暖房 を確保

- ・懐中電灯、LED照明、手回し充電付ラジオ、モバイルバッテリーを確保する ※懐中電灯は毎日枕もとにおく
- ・冬期に備え、ポータブルストーブ、防寒衣、毛布なども備蓄する

プラスワンポイント

非常用トイレの備蓄、車のガソリンは半分になったら満タンにする。お薬手帳、金品などの貴重品や大切なものをすぐ持ち出せるようにする。

(2) 地震発生時における取組

揺れが来たら

落ちてこない・動いてこない・倒れてこない・割れない場所で身を守る。

揺れが おさまったら

- ・部屋のドアや玄関をあけて避難経路を確保する。
- ・火気の確認をして、風呂場に水を貯める。

避難するとき

- ・ブレーカーを落とし、ガス栓を閉め、水抜きを行う。
- ・靴をはいて、足を守り、非常持出品を持ち出す。

プラスワンポイント

自宅の玄関に「無事サイン」や「避難済みサイン」を残す。家族の安否確認を行う。

3. 元町地区が取組む「共助」

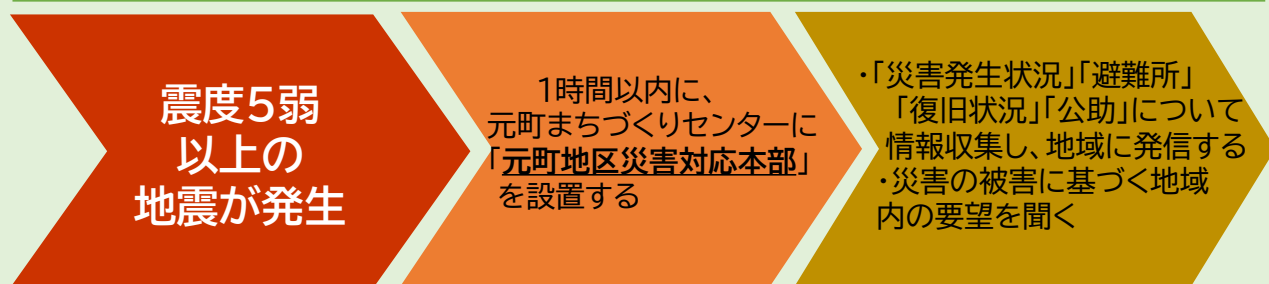
再び、北海道胆振東部地震のように大きな揺れやブラックアウト、断水が起これば困らないように『共助』に取り組んでいく！

(1) 安否確認

町内会、学校、隣近所で協力しあい、全員で地域内の安否確認を行う。特に、独居老人や体の不自由な方などの要配慮者の安否確認をする。

(2) 元町地区災害対応本部 「略称:元町災対本部」

震度5弱以上の地震が発生したら、地域の情報の収集や発信などを行うため、元町地区では元町災対本部を設置する。



(3) 避難所の開設と運営

避難所の開設と運営の支援

- ・区、町内会、学校の役割分担を整理をし、「早期の開設、円滑な運営」を行う。
- ・運営支援は避難者にも協力を呼びかけ一緒に行う。

区役所・学校が開設できないとき

- ・区の職員や学校の先生が避難所に到着しておらず、緊急性の高いときには、区役所に連絡をして、暗証番号キーボックス内の鍵を使い、避難所の鍵開けを行う。

避難所の備蓄物資などの確認

- ・備蓄物資を適切に使えるようにするため、日頃から学校に備蓄されている物資の確認を行う。

定期的な訓練と研修の実施

- ・日頃から訓練や研修を実施して避難所について学び、防災意識の向上に努める。
- ・訓練については、学校、消防署、区役所などにも参加してもらう。

4. 今後の検討事項

■ 安否確認について

民生委員、学校、町内会などで協力して「誰が、誰を、どのように」安否確認をして、「確認の結果どうするのか」を具体的に検討する。

■ 元町災対本部について

情報収集と発信の方法について具体的に考える。また、どのような組織、役割にするかも具体的に検討していく。

■ 避難所の開設と運営について

「誰が、いつから、どこの学校で、どんな支援をするか」役割分担を整理する。運営方法や暗証番号キーボックスの使い方などについて区役所・学校と意見交換を行う。